

## 内郷地区における炭鉱鉄道と炭鉱住宅等の遺構～入山採炭(株)（→常磐炭礦(株)）専用鉄道内郷線〔白水川（→新川）沿い〕

### ① 概説

明治 28 年に設立された入山採炭(株)は、同年に阿武隈高地東縁に高倉坑（第一坑）を開削、白水川（現新川）に沿って東進し、明治 30 年に川平坑（第二坑）を開削、同年には高倉一綴（現内郷）駅に専用鉄道（4.0km）を敷設し、輸送手段を確立した。さらに明治 35 年には入山坑（第三坑）を開削した。



内郷電車線の橋台跡

ちなみに、常磐炭田内で最も早く石炭が発見された弥勒沢は白水川流域にあった。（この奥には私設の「みろく沢炭鉱資料館」が設置され、一部がいわき市文化財に指定）

入山採炭(株)は大規模機械による採炭が終了すると、高倉坑を明治 42 年、入山坑を大正 5 年に廃止とし、鉱区の売却あるいは租鉱権を設定して第三者に採炭させるなどの措置を取った。川平坑は白水地区では唯一の直営経営であった。

昭和 19 年 3 月、入山採炭(株)は国策により磐城炭礦 (株)と企業合併して常磐炭礦(株)となり、川平坑も常磐炭礦内郷礦川平坑と改称したが、合併後、川平坑の出炭量は次第に減少していった。

昭和 20 年代後半に入ると石油の輸入が解禁され、戦後の石炭優遇策は過去のものとなり、外国から流入される安価な石油との価格競争が強いられるようになっていった。このため、常磐炭礦(株)は坑道や坑口などの集約化を図りながら、経営の合理化を図った。

これに伴い内郷礦川平坑も縮小（昭和 28 年）を前提に従業員の他坑配置換えに伴う、通勤手段の確保が生じ、昭和 27 年には、専用鉄道を利用して常磐製作所のある浜井場－川平の 3.2km 区間に従業員輸送用のガソリン気動車を運行させた。

この車庫は現在も常磐製作所西方、専用鉄道を転用した道路脇にそのままの姿をとどめている。



内郷礦川平坑専用鉄道ガソリン気動車車庫跡

## ② 炭鉱住宅

常磐炭礦(株)は昭和 32 年には川平坑を廃止として、川平に住んでいた従業員を他の炭鉱住宅に移転させることにより炭鉱住宅の集約化を図った。この結果、使用されなくなった炭鉱住宅の処分方法が課題として残った。

炭鉱住宅は、従業員を広範囲から円滑に採用するための手法として明治時代以降、各炭鉱に建設されてきた。過酷な労働条件と引き換えに住居費用はほとんど炭鉱負担となっていて、個人負担はほとんどなかった。炭鉱住宅の建設年は昭和 8、10、13、17 年とマチマチであったが、それまでに補修が施されていて、老朽化は一様ではなかった。昭和 34 年 2 月には、常磐炭礦(株)の採炭はすべて湯本地区へ転換した。この結果、常磐炭礦(株)による内郷地区における直接採炭は終了した。

このように炭鉱の閉山が相次ぐなかで、内郷市の市政運営は困難を極めた。炭鉱閉山は人口減少に伴う住民税の減、炭鉱から徴収していた固定資産税の減などの税収減に加え、失業者対策、生活保護費の増など、財政問題を中心に逼迫の度合いを強めていった。ここに内郷市と常磐炭礦(株)両者の利害が一致した。両者の協議は進み、昭和 34 年 11 月には川平坑の施設一切を廃止し、住宅は内郷市へ譲ることが決定された。寄付対象は建物全部で、土地は無償貸与とされた。

炭鉱住宅の内訳をみると、鉱員住宅、職員住宅のほか、倶楽部、世話所、演芸場・保育所、販売所、診療所、入浴場など、日常生活が営める付帯機能がそろっており、まるごと内郷市へ寄付するというものであった。



内郷地区の炭住(准員住宅)

こうした経過を経て、川平炭礦住宅および住宅付属施設のうち、43 棟、167 戸が、市営住宅として供用を開始されたのは、昭和 39 年 4 月のことであった。この市営住宅はいわば既成住宅の再利用であったことから、用途としては低所得者層を対象としたものとなった。

間取りは、炭鉱における職階によって異なり、役員は 1 戸建て、職員もそれに準じた建物、鉱員になると長屋造りに数世帯が住むという形式が取られ、その差は厳然としていた。また、炭鉱住宅は役員・職員と鉱員では設置場所も異なっていた。現在面影を残すのは鉱員住宅で、この場合、土間付きで畳敷きの部屋が二つ、それに押入れ、台所が配置されていた。便所、風呂は共同施設を利用していた。

入山地区には川平住宅のほかにも、入山採炭(株)が建設した入山住宅、矢ノ倉炭礦などが建設した炭鉱住宅が点在するが、いずれもほとんどが改良されて、使用されるか、あるいは取り壊されている状況にあり、まとまったカタチでは存在していない。

専用鉄道跡はほとんどが道路に転用され、隧道も車道用に拡幅されてそのまま使用されている。現在は道路から逸れた場所に隧道が一つ残るだけである。

(おやけこういち)

#### 参考文献

- ①産炭地いわきの概要 1979 年 いわき市
- ②常磐地方の鉱山鉄道 2006 年 おやけこういち
- ③市営住宅に転用された川平炭礦住宅 2008 年 おやけこういち